

名医が選んだ「最強の股関節の名医」

所在地	病院名		特色
	肩書	医師名	
埼玉県 川口市	埼玉協同病院		再生医療に保存治療、手術も手がけるオールラウンダー。同病院は県内随一の股関節手術件数を誇る。
	整形外科部長	桑沢綾乃さん	
千葉県 船橋市	船橋整形外科病院		リハビリスタッフや施設が充実した院内で人工股関節手術に全力投球。アフターケアも親身に行う。
	人工関節センター長	三浦陽子さん	
東京都 世田谷区	公益財団法人日産厚生会玉川病院		人工股関節も骨切りもロボティック手術など最先端技術を含め一手に引き受ける。診察も丁寧と評判。
	整形外科・股関節センター副部長	加瀬雅士さん	
東京都 世田谷区	公益財団法人日産厚生会玉川病院		「基礎に忠実に」が信念。ロボティック手術など最先端技術を含めあらゆる術式を網羅した豊富な実績を持つ。
	整形外科・股関節センター部長	佐藤敦子さん	
神奈川県 相模原市	北里大学病院		豊富な技術と経験をもとに低侵襲の手術を体現。術後の疼痛管理にも注力し、早期回復を目指す。
	整形外科学講師	福島健介さん	
神奈川県 横浜市	横浜市立大学附属病院		すべての手術にコンピューター技術を駆使。全置換はもちろん骨切りから再置換まで幅広い症例に対応。
	整形外科関節クリニックチーフドクター	崔賢民さん	
兵庫県 川西市	あんしんクリニック川西		人工股関節手術では4500例以上の執刀経験を持つ。最後まで患者に寄り添うべく、難症例や再置換術も可能。
	院長	新田真吾さん	
福岡県 福岡市	福岡みらい病院		体への負担を最小限に行う「MIS手術」の名手。早期かつ生活に行動制限が生じない回復を体現する。
	整形外科関節外科センター長	吉居啓幸さん	
福岡県 小郡市	福岡志恩病院		「痛みの緩和はもちろん行動制限のない生活を手術で体現する」をモットーに人工股関節手術に注力。
	医師	黒木一央さん	
福岡県 小郡市	福岡志恩病院		「患者さんの生活の質を高め、健康寿命を延ばす」の信念のもと、一人ひとりに合わせた治療法を提案。
	医師	黒木綾子さん	

「人工股関節の手術は患者さんの個性が大きいので、個々に合わせたオーダーメイド治療をしていくことが重要です。そのためにも、看護師やリハビリのセラピストと情報を共有することを、私はいちばん大切にしています。外科手術のスキルがいくらあっても、多職種の連携がなければ、目的達成は難しいのです。」

その点、当院は入院ベッド数が19床未満のかなり小規模な医療機関です。人工股関節の手術をする医療機関としては全国的に見ても小さな部類ですが、組織は小さいほどに目的の共有がしやすいといえます。」

また、人工関節を入れれば、それだけで元のように生活できるようなるわけではない。衰えた筋力を回復させるための術後のリハビリも重要な多職種が連携し、個々の患者の情報を共有していれば術後の回復の早さも大きく変わると田巻医師は続

な医療機関で手術を受けるべきだろうか。前出の中村医師はこう断言する。

「人工関節手術におけるナビゲーションやロボットはあくまで補助的なもので、それらを導入したからといって、必ずしも手術成績が向上するわけではありません。同じ変形性膝関節症であつても、膝関節が伸びなくて困っている人もいれば、曲がらなくて困っている人もいます。人の顔と同じように

変形の程度はさまざまです。ですから、1例1例をよく吟味して、症例個々の問題を把握することが、手術成績を向上させるためには大切です。」

そのためには画像だけでなく、術者が直接、膝を触って確かめることが不可欠だという。

「患者さんに関するすべての情報を総合し、最後に術中の感触も加味して手術を進めていきます。」

私は、膝を直に見て触った情報がいちばん大切だと、先輩医師から教わりました。信頼できる医師とは、画像情報だけで判断せず、術前に丁寧に膝や股関節を診察し、わかりやすく説明してくれる医師だと私は思っています。」（中村医師）

満足できる手術を受けるためには、チームプレーも必要だと話すのは、なか整形外科京都北野本院院長の田巻達也医師だ。

「人工股関節の手術は患者さんの個性が大きいので、個々に合わせたオーダーメイド治療をしていくことが重要です。そのためにも、看護師やリハビリのセラピストと情報を共有することを、私はいちばん大切にしています。外科手術のスキルがいくらあっても、多職種の連携がなければ、目的達成は難しいのです。」

その点、当院は入院ベッド数が19床未満のかなり小規模な医療機関です。人工股関節の手術をする医療機関としては全国的に見ても小さな部類ですが、組織は小さいほどに目的の共有がしやすいといえます。」

また、人工関節を入れれば、それだけで元のように生活できるようなるわけではない。衰えた筋力を回復させるための術後のリハビリも重要な多職種が連携し、個々の患者の情報を共有していれば術後の回復の早さも大きく変わると田巻医師は続